

銀年

銀座でわかる年季

情報(第 95 号)



令和 2 年 7 月 30 日

745-0031 周南市銀南街 21 銀南ビル 2 階
銀座社会保険労務士法人 代表社員 吉国 智彦
TEL 0834-34-0567 FAX 0834-34-0565
E-mail: ginzasyakaihoken@iaa.itkeeper.ne.jp
URL: <https://ginza-syaroushi.com/>

くちなしの花：歌にあるくちなしのような女性とはこの白さなのだ（令和 2 年 7 月 11 日）。

公的年金制度から人生を考える



1 突然の入居

歳を重ねるごとに不安感は増していました。

最近、義母が自宅で突然倒れ、入院治療後、介護付き有料老人ホームへ入居しました。幸いにも自己の老齢基礎年金、遺族厚生年金、更には恩給（扶助料）の受給から、その費用がすべてこれら年金で賄われ、子供の家計からの支出がありません。

2 突然の事故

6 年前には、当職の父が突然の事故（原付で転倒）で、骨折し 2 か月くらい入院しました。このときは、父自身が入院費用で子供に負担をかけるのではないかと随分と気をもみましたけれど、老齢基礎年金に加え交通災害共済に加入していたことから、大きな出費がありませんでした。

このように、年金は、年金を受給していない若い世代にも恩恵がある、有り難い制度です。改めて実感します。

3 貰えるわけがない

当職は、年が「33 年」で、来年には特別支給の老齢厚生年金を受給することができます。老齢厚生年金の受給とは、法的には高齢者と認定することであり、高齢者の認識がない当職にとっては、有り難いような有り難くないような心境です。

当職が随分若い頃、一つ、二つの先輩には、「給料から強制的に引かれるから払ってやっている。年金なんてあてにしてないし、そんなもん貰えるわけがないじゃないか」と、随分勢いがよかった方もありました。今、会うとその記憶はなかったかのようで、涼しい顔をして受給されています。勿論、当職が支払うわけではないので、謝罪したり感謝したりする必要はまったくないものの、昔のその態度は、周囲へいくぶんか害悪をまき散らしたのですから、少々反省し、若い世代へ好影響を与えていただきたいものです。

4 国家と国民

若い世代には、年金が想像できないのでしょうか。「どうせ僕らの時にはもらえない」との漠然とした不安感は、年金記録問題を契機として増加したように思いますが、昔からあったことです。先輩から聞いた話を紹介すると、国民年金制度は、昭和 36 年 4 月から保険料を徴収し始め、当時は月額 100 円（名目額）でした。その保険料でさえ、「やかましいわ、そんな貰えるやら貰えんもんに誰が払うか●」とまくし立てる御仁が多かったと聞かされたものです。

どこかの国ならばその主張もわかりますが、世界の中でも安定した、しかも民主国家で、その政府を信用しないならば何を信用するのでしょうか。本誌 90 号で紹介した「流れる星は生きている」（藤原てい）のとおり、国家が崩壊すると国民の命の保証はなくなります。国家と国民は表裏一体ですから、軽々しく政府を否定すべきではありません。

5 社会への貢献

一時、スーパーボランティアとして、尾畠春夫さんが有名になりました。ここ山口県周防大島町でも子供の命を救っていただき、今も水害の地区でご活躍されていることでしょう。頭が下がります。誰にも真似ができません。

一方、誰でもできる社会貢献は、年金制度に参画することです（同時に健康保険制度に参画することになります）。働いて、その得た収入から保険料を納付いただくことは（厚生年金保険では給料から控除、国民年金では現金納付）、遅くとも 20 歳から現役引退まで（国民年金では 60 歳）続く長い道のりです。ボランティアは、多くが一過性であり、年金制度への参画は継続的ですから、貢献度も数段高いのです。付言しておく、企業の貢献は更に高いといえます。

ボランティアは、自発的で仕組みがなく、これをやることには体力以外に積極的な意思が必要となります。しかし、年金制度では、受動的で仕組みがあるので、簡単に社会貢献を果たすことができるのです。

6 反権力

とはいえ、物事は難しいもので、単純ではありません。飲みに行くと、上司の悪口になることは多いことで、権力には反発する傾向があるものです。加えて、完璧な上司がいないのと同じく、政府の運営が完璧であるはずもなく、不平不満になりがちです。

当職は全く不出来な人間であると日々反省していますが、不平不満ではなく、まずは感謝の気持ちを有したいと考えています。

7 誰かのせい

「日本では誰もが、本や新聞を読める教育を受け、しかも経済、政治、社会のあらゆる面から自分で生き方を選択できる。それなのに、未だにすべての結果を人のせいにする空気が漂っている。日本人はすべて自分の身に起きた悪いことは、必ず誰か他人のせいだ、それが補償されるべきだと考えるようになった。時には天災の原因さえも、時の政府がそれに備えなかったのが悪い、と考えるようになった」（曾野綾子：私の危険な本音）と指摘しています。

本当にそういう主張が多く、自己が家族・会社・社会にどんな貢献ができるかを考えることが必要です。

最後に年金の話題に戻しましょう。若い頃に年金に貢献していると高い年金額となり、感謝で過ごせ、そうでなかったときは否定的な嫌らしい老後を送ることになります。人生は、若いときこそがより重要です。

当法人では、年金制度の研修講師を受託しております

745-0031 周南市銀南街 21 銀南ビル 2 階
銀座社会保険労務士法人 社会保険労務士 吉国智彦
TEL 0834-34-0567 FAX 0834-34-0565
E-mail:ginzasyakaihoken@iaa.itkeeper.ne.jp
URL: <https://ginza-syaroushi.com/>